まえがき

本報告書は、平成 19 年度（2007 年度）にアジア経済研究所で実施された基礎理論研究会「中東諸国におけるミクロデータの蓄積と経済実証分析の現状」の成果である。

本研究会は中東諸国を対象とした経済実証分析の現状と可能性を探ることを目的としたものであった。これまで中東諸国の経済分析を困難にしている要因として、経済データの不備が指摘されることが多かった。国によって多少の違いはあるものの、総じて中東諸国では経済データの整備・公開が遅れている。しかしながら、1990 年代後半以降、徐々にではあるが、こうした状況に変化の兆しが見受けられる。一部の国で経済データ、特にミクロデータの収集・公開が実施され、それに伴って公開ミクロデータを活用した経済実証分析が行われるようになっている。そこで、本報告書では、中東諸国のなかで比較的ミクロデータの収集・公開が進んでいると思われるエジプトの家計・企業データと GCC 諸国の銀行データについて、利用可能なミクロデータの状況とそれらを利用した先行研究を整理した。今後、この成果を出発点として、中東地域を対象とした経済実証分析に対する理解を深めるとともに、後続の研究会においてわれわれ自身もミクロデータを利用した経済実証分析を試みたいと考えている。

本報告書は今後の研究に向けた第一歩にすぎず、さらなる調査・議論を進め研究内容を改善していく必要があることは言うまでもない。今後、所内外の同僚、諸先輩方からのご意見、ご助言を仰ぎながら、研究を発展させていきたい。

2008 年 2 月 29 日

土屋　一樹